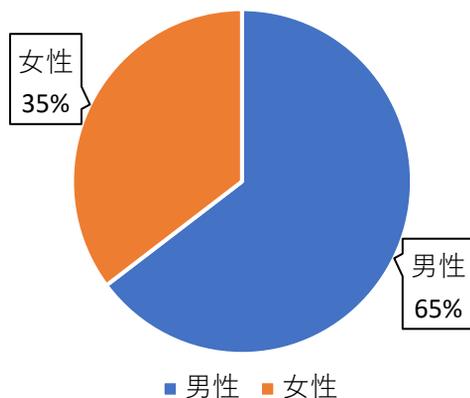


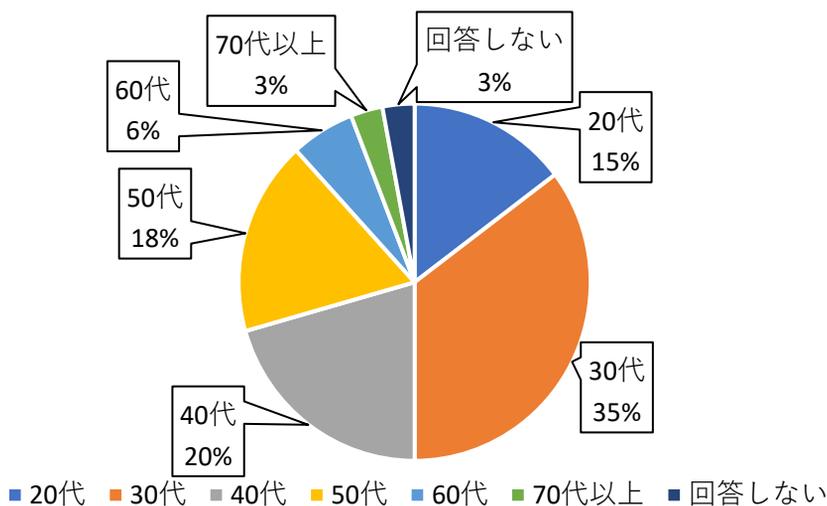
日本放射線影響学会2022年度キャリアパス・男女共同参画委員会アンケート集計結果

実施期間：2022年9月16日～10月14日（Googleフォームを利用し、Web経由で実施）
有効回答数：34件

Q1：性別

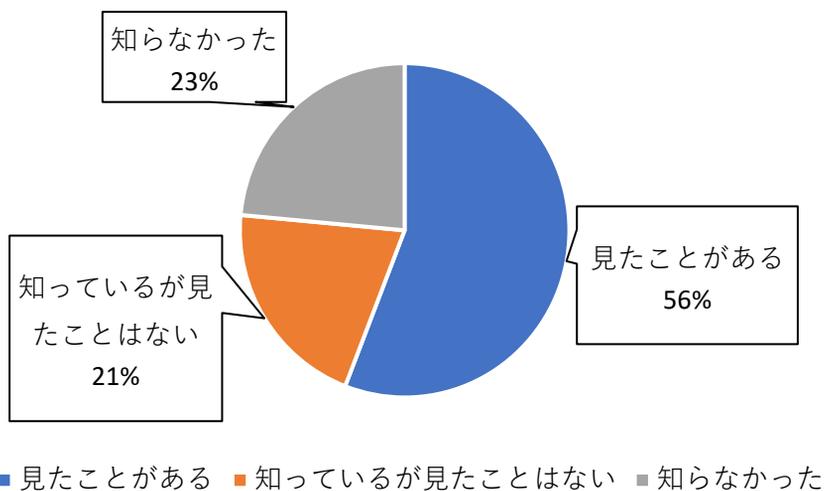


Q2：年齢

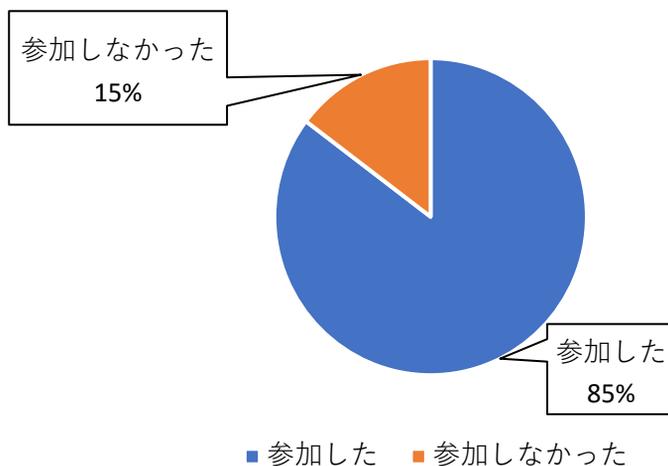


Q3：キャリアパス・男女共同参画委員会Webページ

(https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html) をご覧になったことはありますか。



Q4：第9回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「現代のライフイベントから学ぶ研究者の持続可能なライフプランとは？」には参加されましたか？



Q5：Q4においてセミナーに参加された方はご感想をご入力ください。（自由入力）

ワークワークライフバランスと言う考え方に刮目させられました。

自身の職場で取り組まなければいけない問題だから。

参考になりました。

介護などについて理解が深まるとともに、突然やってくるというフレーズが印象的だった

セミナーでは、多様な話を聞いて、勉強になりました。普段、プライベートな話は質問しにくいのですが、セミナーがあるおかげで、セミナー後に、自然と子育て等に関する雑談ができてとても有難いです。

ライフイベントを考える良い機会になったと思います

我々も参加できてよかったです。

講師の先生の話が興味深く、楽しく聞かせていただいた。パネリストの先生のそれぞれの立場からのお話がとてもよかったです。

講演では、世界における日本の現状やアンコンシャス・バイアスなど、近年の我が国の男女共同参画でも注目されているキーワードを含めながら、演者自身の考えが述べられていた点が良かった。パネル討論では、「人生100年時代」を見据えたメッセージを発信された島田先生のコメントを聴いて、「さすが島田先生！」と感銘を受けた。

育児介護休業法もでき、休むことの抵抗感が残ってはいはだめである。職場での周知を行う上でも良い企画であった。今回は介護のところを周知できたのはよかった。

ライフイベント時の評価軸が大切。

参考になった

様々な年代の先生方の体験談を聞いて、現在の子育て・今後の介護と、仕事の両立について考える良い機会でした。

講師の先生が仰った「ワーク・ワーク・ライフバランス」という表現について、納得したと同時に、そのような考え方で今後の研究を進めながら、同時に子育ても行おうと思った。

所属機関の中における対応のみが論点であったように思うが、学会自身の対応についての検証・議論も必要だったと思います。影響学会内ではそのような配慮はされていないように思います（とくに介護を行っている会員、役員に対して）。

介護など自身より上の年代のテーマが多かったが、今後のライフイベントに人生の先輩である皆様がどのように対応してきているのかを前以て聞くことができ勉強になった。

様々な経歴の方の意見がきけてよかった。

研究者のキャリア形成の形も十人十色だと実感した。

様々な立場の方のお話が聞いて興味深かったです。

ゲスト講演はもちろん、登壇された幅広い世代の先生方・学生さんの声を聴けたことや、リアルタイムのアンケートによる会場の皆さんの考えを知ることができて、良かったです。これまでにライフイベントに関して自身でも考えることはあっても、あくまで主体的であって中々答えも出ずに先に進んできましたので、今回他の人たちがどう考えているのか、自分の考えと照らし合わせて客観的に捉えることで、冷静さを増してもっと前進できそうな気がします。ありがとうございました。

Q6：次回以降のキャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーの内容についてのご提案・ご要望などがありましたらご入力ください。（自由入力）

祖父母が遠方の時や単身赴任での子育てと研究、遠距離介護、子どもを連れた留学方法などに興味があります。家族との関係（仕事に関わる同居？別居など）

今回のように、経験者の方々からのなまのご意見を聞けるのは、とても良いと思います。

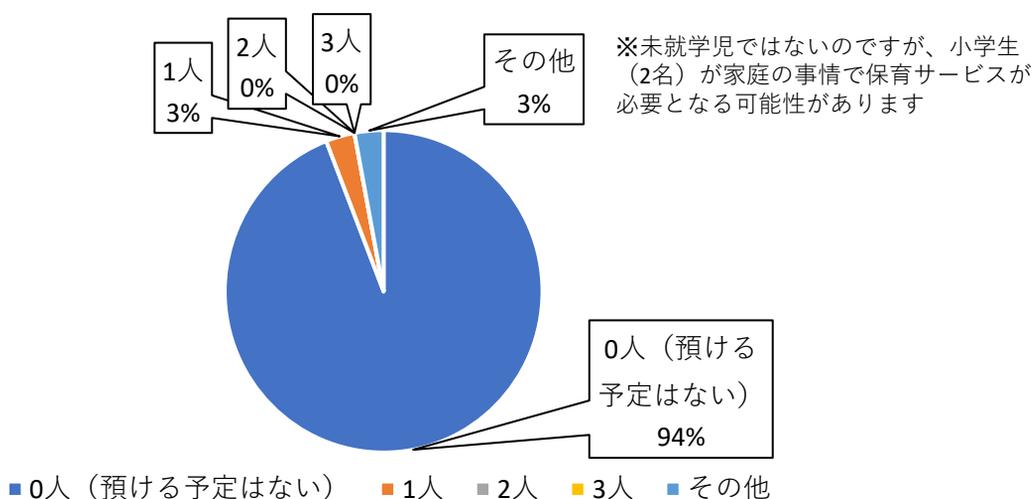
講師・パネリストについては、男女のバランス・年代のバランスを意識しながら登壇者を抜擢してきた2019年の京都大会での企画セミナー以降の流れを引き継いでおり、非常に良い。ただ、女性のパネリストについては、やや若手、キャリアが短めの方が選ばれがちである印象がある。50代以上の女性のパネリストにも登壇いただけると、より長い経験を踏まえたコメントが聴けるのではないだろうか。男性のパネリストとしては、田ノ岡宏先生を強く推薦する。

人生100年時代の設計

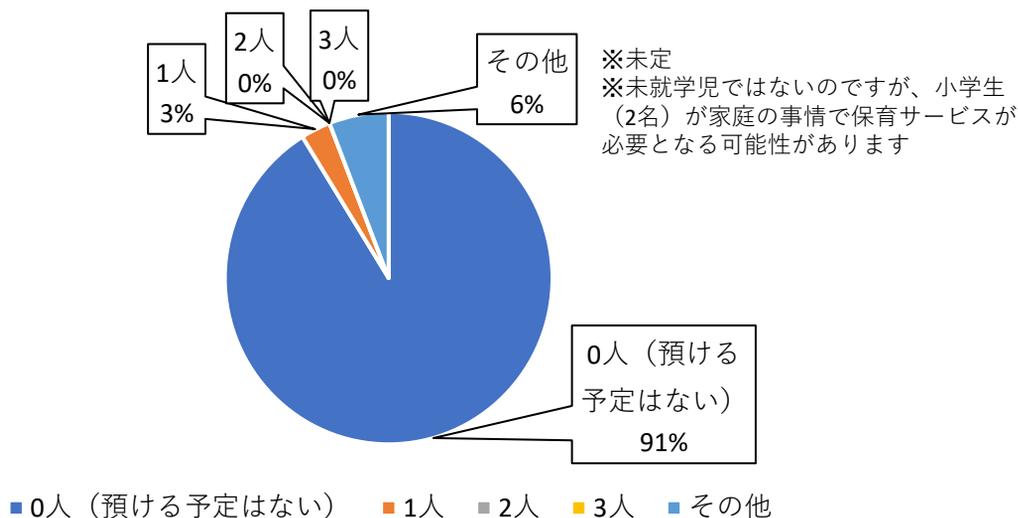
個々の先生方のキャリアパスなどはこれまでも聞いてきました。次のステップに進んでいくのでしょうか？それとも毎年、個々の先生方の経験を聞くだけでいいのでしょうか？

大学院生のアカデミア就職や若手研究者のキャリアパスについて

Q7：第66回大会（2023年11月6日?8日に東京にて開催予定）に参加される方で、開催地での保育サービスの利用を必要とされる見込みの方は、該当するお子様（生後3ヶ月以上の未就学児）の人数をお教えてください。（現地開催されると仮定してお答えください）



Q8：第67回大会（2024年9月に北九州にて開催予定）に参加される方で、開催地での保育サービスの利用を必要とされる方は、該当するお子様（生後3ヶ月以上の未就学児）の人数をお教えてください。（現地開催されると仮定してお答えください）



Q9：本学会では、男女共同参画に関わる大会参加支援の1つとして、年次大会参加中に開催地における託児サービス利用した学会員に対して託児費用を補助する「託児費用援助制度」を設置しています。他に、多様な事情やニーズを抱える会員が学会活動により参加しやすくなるためのアイデアやご提案があれば、ご入力ください。（自由入力）

介護についても支援したらいかがか。

現状の制度を続けるのが良いと思う

現地開催のイベントに加え、オンライン開催のイベントも採り入れることにより、多様な事情を抱える学会員を「置いてきぼりにしない」ことが大切である。また、学会の懇親会は、夜に別会場で豪華に夕食付きで行うことが慣例になっているが、昼間（昼食タイムやティータイムなど）に学会会場でゆったりとした懇親の時間を設けることがあっても良いと感じている（そうすれば、子育て中や介護中、そして、多忙で早く帰らなければならない研究者にも参加しやすくなる）。ポスター発表会場も工夫次第で良い懇親の場になり得る。今後の大会長の工夫と知恵に期待したい。

今回は託児所の設置がなく、現地で自分でサービスを探して費用の補助のみでしたが、日頃家事や子供の世話に追われる中、やっとのおもいで学会参加の準備を終え、さらに保育所の情報を問い合わせる予約や手続き、さらにその費用の申請手続きをする余裕は全くなかったです。現地で土地勘のない中で会場から離れた託児施設を探すのは大変だと思いますので、今回、コロナ禍が続いて久しぶりの現地開催であったため、それだけでも相当な方々の苦勞の元での開催準備があったことと思いますので、今回は託児費用補助となった件に関しては妥当な判断と思う一方で、限られた予算の中大変とは思いますが、引き続き会場内の託児サービスのご検討を続けていただきますようお願いいたします。私自身は、今後は使わない可能性もありますが、今回託児サービスが気軽に利用できなかったことにより、学会参加を断念した人もいるのではないのでしょうか。

従来通りでよい。

子どもや両親（参加者からみて両親）が大会会場内に無料で出入りが自由にできる枠を設けてほしい。今までの影響学会では同伴者に対する対応が全くできてきていない。

コロナの不安もあり、子連れで参加するよりWebで参加できるほうが負担が少ないと感じます。

COVID19のパンデミックをきっかけに、オンライン配信等の技術が確立されつつある。学会大会の対面開催が可能になったとしても、ライブ配信、期間限定の録画配信等が併用されると、育児・介護に携わる研究者でも気軽に参加できるのではないか。

自身や家庭の事情（子育て、介護、怪我、コロナで高リスクな持病をもつ）などにより現地参加が難しい方へのオンラインでの発表や視聴が可能なセッションの設定。

Q10：キャリアパス・男女共同参画活動に関するご意見・ご要望がありましたら自由にお書きください。（自由入力）

心を込めて築かれてきた本学会のキャリアパス・男女共同参画活動の礎と魂が、今後も末長く継承されることを願っています。

ライフイベントの介護、子育て、家事等に追われていると予定外のことが多く起こり、そのような人々への支援を手厚くすると、一方でそのような支援が現状必要としていない人の不満も出てくるのかもしれませんが、ただ、そのようなライフイベントが誰にでも起こりうることを周知し、学会全体でサポートできるような仕組みを作ることが重要なのではないのでしょうか。

頑張ってください。

司会者の1人（または2人）は女性がよいのでは？

企業側が修士・博士課程修了予定の学生やポスドクなどの若手研究者に対して、どのようなニーズを持っているか、人事担当者から話を聞く企画を立てたらいかがか。

研究職における性による働きやすさや職場での待遇の違い、雇用における女性限定の公募などの対策について、実際に多くの施策が講じられている中で研究者となった20～30代の若手研究者がどのように捉えているのかが気になる（調査してほしい）。

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画委員会